



## 挑戦する2学期に

校長 佐藤 雅彦

8月24日(水)、子どもたちはグリーンゲートを小走りで通過し、また通学バスから弾むように降りて、元気な様子で学校へ戻ってきました。始業式式辞の際にそれぞれの顔を見渡しましたが、どの子からも2学期への期待や希望が感じられ、良いスタートが切れたことをありがたく思っています。

### 2学期始業式 校長式辞から

1学期の終わりにはたくさんのお友達がロンドン日本人学校から転校して行ってとても寂しい気持ちでしたが、きっとまた、それぞれの場所で決意新たに今日を迎えていることと思います。そして、今朝はまたたくさんの新しい仲間が入学しました。

2学期は1年の中でも最も長い期間であり、実り多い学期と言われます。昨日で夏休みは終わってしまいましたが、計画的に過ごせた人も何かしら悔いることのある人も、変えることのできない過去に縛られるより、努力によって変えられる未来に目を向けて、「心のリセット」をし、真っ白な気持ちでスタートしましょう。

中学部3年生、そして小学部の6年生はこれまで学校のリーダーとして活躍してくれました。しかし、まだ完全ではありません。児童会や生徒会の日常的な活動にもまだまだ改善点や伸びしろがあります。例えば清掃がそのひとつです。最高学年がビシッとできたならば、それは必ず下級生につながっていきます。その点をふまえて、今学期もう一度全校をリードしてください。その一つに文化祭があります。夏休み前からすでに準備は始まっていますがいよいよ本格化します。どうか、運動会と同じく歴史に残る文化祭になるよう、全校の皆で心を合わせて頑張ってください。

そして、来春には中3生徒の皆さんはもちろん、それから小6児童の皆さんもいよいよひとつ上の校種への進路決定です。毎日を大切に、友人たちや

先生方と心ひとつに進んでいきましょう。

さて、2学期の開始にあたって皆さんに何を話そうかと考えていましたら、これが目に入りました。これは、なんですか？そうです、ペットボトルです。私が皆さんの年齢の時には、世の中にありませんでした。他にもそういったものはたくさんあります。例えば、スマートフォンやエアコン、インターネットなど。この40年、50年でたくさんの新しいものが発明されました。それらは、全て人類が作り出したものなのです。このペットボトルですが日本では1977年に初めて世の中に出てきました。キッコーマンという製造会社の造るお醤油容器に使われたのです。今から45年前のことです。それから5年後、1982年にはコカコーラのボトルに使われ始めます。今ではペットボトルは軽くて丈夫、さらにリサイクルできる容器として生活の中に根付いています。これも人間が発明したものなのです。

発明といえばこの人は誰ですか？アメリカの発明家トーマス・エジソンですね。エジソンは、この写真にもあるように、LEDライトのもとにもなる、「白熱灯」を発明しました。それから「蓄音機」といって、音や声を蓄え再生できる、CDやDVDにつながっていく機械もエジソンが造り出したのです。その他にもたくさんの発明品があります。また、エジソンは数々の名言を残しているのですが、その中でも私が最も好きなエジソンの言葉を紹介します。有名な言葉ですから、皆さんの中には知っている人、聞いたことがある人もいると思います。その言葉とは、「私は失敗したことはない、1万回のうまくいかない方法を見つけただけだ。」です。

何度も挑戦し失敗をし、それでも挑戦を繰り返して、そして正しい方法を見つけていく、失敗を恐れることなくチャレンジを続けるエジソンの姿を現しています。「成功の反対は失敗ではない。成功の反対は挑戦しないことだ。」と、挑戦を続けることの大切さを教えてください。是非、ロンドン日本人学校の皆さんには、目標をもって勇猛果敢に挑戦してほし

い。もし失敗をしてもさらに挑戦を続ける、そんな前向きな気持ちを持ち続けてほしいと願っています。2学期の始まりにあたり、挑戦することの素晴らしさについて話しました。

最後に、1学期に何度も伝えてきたことをもう一度言います。ロンドン日本人学校のみんなは、自分がしてほしいことは周りの人にしません。自分がされて嬉しい気持ちになることを他の人にしてあげます。どうか、明るく前向きな気持ちで過ごしていきましょう。

## ロンドン日本人学校『校歌』の素晴らしさ

### ロンドン日本人学校校歌

一 青い 高い 大空  
テムズ河畔の  
ビッグベンビッグベン  
心豊かに 健やかに  
自ら学べと 鳴り渡る

二 薫る 伸びる 緑の  
リージェントパークに  
弾む声  
育つ友愛 さわやかに  
実りの明日 めざしつづ

三 清く 強く 明るく  
我らの誇り 学舎の  
チャペルの集い  
和やかに  
英知の光 いつまでも

本校校歌の1番には、ロンドンのシンボルであるウェストミンスター宮殿（国会議事堂）に付属する時計台「ビッグベン」が詠われています。さらに、2番には「リージェントパーク」が出てきます。リージェントパークは、ロンドン北部にある王立公園です。ウェストミンスター区とカムデン区にまたがっているとても広い公園です。公園内には数百種類、何万本ものバラの花が咲く庭園があり、とても美しい場所として知られています。1987年に現在のアクトン校舎に移転する前、カムデン地区に本校校舎が存在していた時に作詞されたものなのです。3番には「チャペルの集い」とあります。カムデン校舎は、もともとは修道院でしたので、入学式や卒業式、それから文化祭もお祈りをする場所である「チャペル」で開催していました。チャペルは儀式的行事や文化的行事や学習発表会を行う、大切な場所であったことがこの歌詞からも分かります。校歌の1番から3番までの作詞は、当時の保護者の谷口貞子さん、作曲は中学部の生徒だった伊藤美穂さんです。カムデン校舎の時代から、ロンドン日本人学校は自由闊達な校風だったと言われています。そし

て、児童生徒はその自由な校風の中で、自分自身を律することを大切にし、誇りに思っていたと聞きます。その精神は、令和の時代である現在にもしっかりと受け継がれています。自立・貢献・気品です。

## 1998年 校歌の4番、5番が加えられた

四 歴史 語る  
ロンドンの  
赤いレンガの 学舎に  
はすむ語らい 光る汗  
希望の翼 たくましく

五 木もれ日 やさしい  
菩提樹に  
バラの香りの 風わたる  
イーリングの道  
踏みしめて  
世界を結ぶ かけ橋に

現在の校舎に移転して11年後の1998年には、校歌の4番と5番が新しく加えられました。イーリング地区や赤煉瓦造りの校舎、校庭にそびえ立つ菩提樹が詠われています。校歌は毎日の音楽科授業の導入に歌われています。ロンドン日本人学校の歴史と未来への希望を織り込んだ歌詞、親しみやすく心地よいメロディで児童生徒たちも大好きな歌です。2学期始業式でも、体育館から校舎全体へ子どもたちの澄んだ歌声が響き渡りました。「世界を結ぶ かけ橋に」♪



新たに英会話講師として、David Gunning（デイビッド・ガニング）先生が着任しました。また、養護教諭（保健室の先生）は、今月20日頃に着任予定です。それまでは教頭や学級担任を中心に、けがや病気の対応をしています。



夏季休業期間中の作業が終了し、防火扉43箇所が新しく設置されました。詳しくは [Blog](#) にて！

[ロンドン日本人学校公式 Blog](#)  
ロンドン日本人学校の“今”を伝える  
公式 blog を御覧ください。

